

足立区環境審議会

CO₂削減目標設定・方策検討専門部会

別冊資料集

目次

専門部会資料 1 関連

- 1 区内のCO₂排出量の最新実績と推移

専門部会資料 2 関連

- 2-① 家庭部門のCO₂排出量関連データ
- 2-② 家計と脱炭素パンフレット
- 2-③ (参考) 区の脱炭素施策を費用対効果で比較

その他

- 3 (参考) 子ども・若者の意見を反映
- 3-① あだち若者会議(高校アウトリーチ)の意見及び方策の方向性
- 3-② あだち若者会議(公募型)の意見及び方策の方向性
- 3-③ きかせて!みんなのいけん(アンケート)」結果概要
- 4 上位計画の理念を反映させた柱立て(第1回審議会資料)
- 5 環境基本計画策定スケジュール(第1回審議会資料)

件名	区内のCO ₂ 排出量の最新実績と推移																																																																			
内容	CO ₂ 排出量実績(※)及び推移について概要を報告する。 ※ オール東京62市区町村共同事業の独自算定による排出量実績 ➡ 算定には都全体のエネルギー使用量を地域ごとの活動量で案分した数値が使用されている。 ※ 集計に時間を要するため、今回算定された最新の実績は2022年度の排出量となる。																																																																			
	1 足立区と23区、多摩地域のCO ₂ 排出量																																																																			
	<table><tr><td></td><td>2022 年度 排出量</td><td>前年度比</td><td>2013 年度比</td></tr><tr><td>足立区</td><td>203.8 万トン</td><td>▲2.9%</td><td>▲ 20.3%</td></tr><tr><td>23区</td><td>3,916.3 万トン</td><td>▲1.7%</td><td>▲ 21.7%</td></tr><tr><td>多摩地域</td><td>1,326.0 万トン</td><td>▲1.7%</td><td>▲ 18.4%</td></tr></table>		2022 年度 排出量	前年度比	2013 年度比	足立区	203.8 万トン	▲2.9%	▲ 20.3%	23区	3,916.3 万トン	▲1.7%	▲ 21.7%	多摩地域	1,326.0 万トン	▲1.7%	▲ 18.4%																																																			
		2022 年度 排出量	前年度比	2013 年度比																																																																
	足立区	203.8 万トン	▲2.9%	▲ 20.3%																																																																
23区	3,916.3 万トン	▲1.7%	▲ 21.7%																																																																	
多摩地域	1,326.0 万トン	▲1.7%	▲ 18.4%																																																																	
第三次足立区環境基本計画改定版に定めるCO ₂ 削減目標 (基準年：2013年度) 2030年度 ▲46%以上																																																																				
2 足立区のCO ₂ の推移																																																																				
単位: 万トン <table><caption>2030 年度の排出量目標 138.1 万トン</caption><thead><tr><th>年</th><th>CO₂排出量 (万トン)</th></tr></thead><tbody><tr><td>1990</td><td>265</td></tr><tr><td>1991</td><td>275</td></tr><tr><td>1992</td><td>280</td></tr><tr><td>1993</td><td>270</td></tr><tr><td>1994</td><td>275</td></tr><tr><td>1995</td><td>260</td></tr><tr><td>1996</td><td>245</td></tr><tr><td>1997</td><td>245</td></tr><tr><td>1998</td><td>245</td></tr><tr><td>1999</td><td>245</td></tr><tr><td>2000</td><td>245</td></tr><tr><td>2001</td><td>240</td></tr><tr><td>2002</td><td>255</td></tr><tr><td>2003</td><td>270</td></tr><tr><td>2004</td><td>250</td></tr><tr><td>2005</td><td>245</td></tr><tr><td>2006</td><td>230</td></tr><tr><td>2007</td><td>250</td></tr><tr><td>2008</td><td>245</td></tr><tr><td>2009</td><td>235</td></tr><tr><td>2010</td><td>230</td></tr><tr><td>2011</td><td>240</td></tr><tr><td>2012</td><td>255</td></tr><tr><td>2013</td><td>255</td></tr><tr><td>2014</td><td>245</td></tr><tr><td>2015</td><td>230</td></tr><tr><td>2016</td><td>220</td></tr><tr><td>2017</td><td>220</td></tr><tr><td>2018</td><td>215</td></tr><tr><td>2019</td><td>205</td></tr><tr><td>2020</td><td>200</td></tr><tr><td>2021</td><td>210</td></tr><tr><td>2022</td><td>205</td></tr></tbody></table>	年	CO ₂ 排出量 (万トン)	1990	265	1991	275	1992	280	1993	270	1994	275	1995	260	1996	245	1997	245	1998	245	1999	245	2000	245	2001	240	2002	255	2003	270	2004	250	2005	245	2006	230	2007	250	2008	245	2009	235	2010	230	2011	240	2012	255	2013	255	2014	245	2015	230	2016	220	2017	220	2018	215	2019	205	2020	200	2021	210	2022	205
年	CO ₂ 排出量 (万トン)																																																																			
1990	265																																																																			
1991	275																																																																			
1992	280																																																																			
1993	270																																																																			
1994	275																																																																			
1995	260																																																																			
1996	245																																																																			
1997	245																																																																			
1998	245																																																																			
1999	245																																																																			
2000	245																																																																			
2001	240																																																																			
2002	255																																																																			
2003	270																																																																			
2004	250																																																																			
2005	245																																																																			
2006	230																																																																			
2007	250																																																																			
2008	245																																																																			
2009	235																																																																			
2010	230																																																																			
2011	240																																																																			
2012	255																																																																			
2013	255																																																																			
2014	245																																																																			
2015	230																																																																			
2016	220																																																																			
2017	220																																																																			
2018	215																																																																			
2019	205																																																																			
2020	200																																																																			
2021	210																																																																			
2022	205																																																																			
3 足立区の23区の部門別CO ₂ 排出割合(2022年度)																																																																				
<table><tr><td></td><td>産業</td><td>家庭</td><td>業務</td><td>自動車</td><td>その他</td></tr><tr><td>足立区</td><td>10.5%</td><td>40.6%</td><td>22.2%</td><td>18.9%</td><td>7.8%</td></tr><tr><td>23区</td><td>5.9%</td><td>32.6%</td><td>42.1%</td><td>12.2%</td><td>7.2%</td></tr></table>		産業	家庭	業務	自動車	その他	足立区	10.5%	40.6%	22.2%	18.9%	7.8%	23区	5.9%	32.6%	42.1%	12.2%	7.2%																																																		
	産業	家庭	業務	自動車	その他																																																															
足立区	10.5%	40.6%	22.2%	18.9%	7.8%																																																															
23区	5.9%	32.6%	42.1%	12.2%	7.2%																																																															

3 足立区の部門別CO₂排出量及び増減率（前年度比、基準年度比）

	2022 年度排出量	23 区順位	前年度比 増減率	基準年度 (2013 年度) 比 増減率
産業部門計	21.3 万トン	19 位	▲4.4%	▲14.1%
家庭部門	82.8 万トン	20 位	▲5.4%	▲16.3%
業務部門	45.2 万トン	12 位	▲2.8%	▲26.0%
自動車部門	38.6 万トン	23 位	▲1.5%	▲29.2%
その他	15.9 万トン	-	▲2.5%	▲4.2%
総合計	203.8 万トン	17 位	▲2.9%	▲20.3%

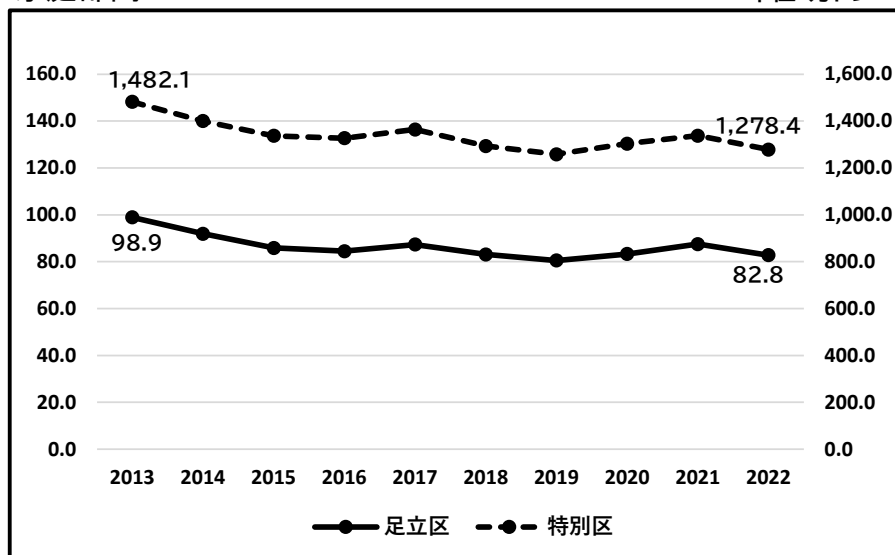
※ 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

23 区順位は少ない順

4 足立区と23区の部門別CO₂排出量の推移

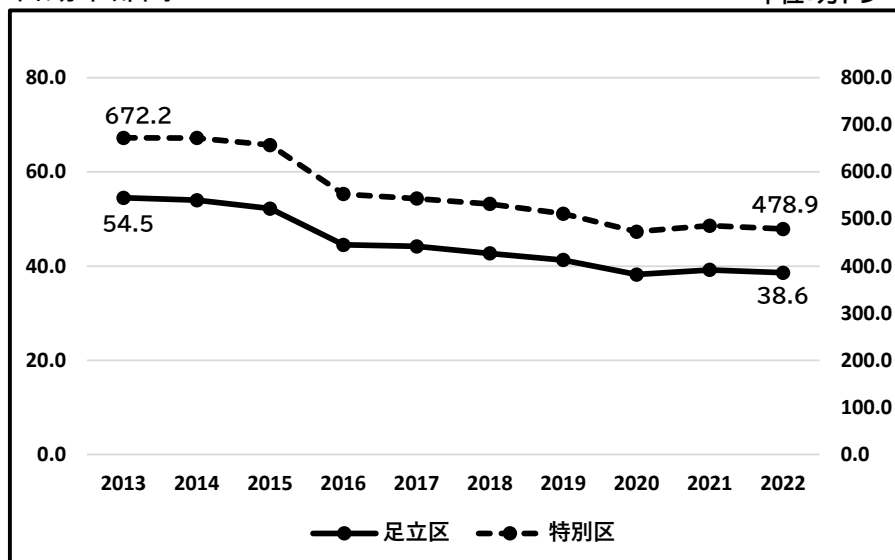
家庭部門

単位:万トン



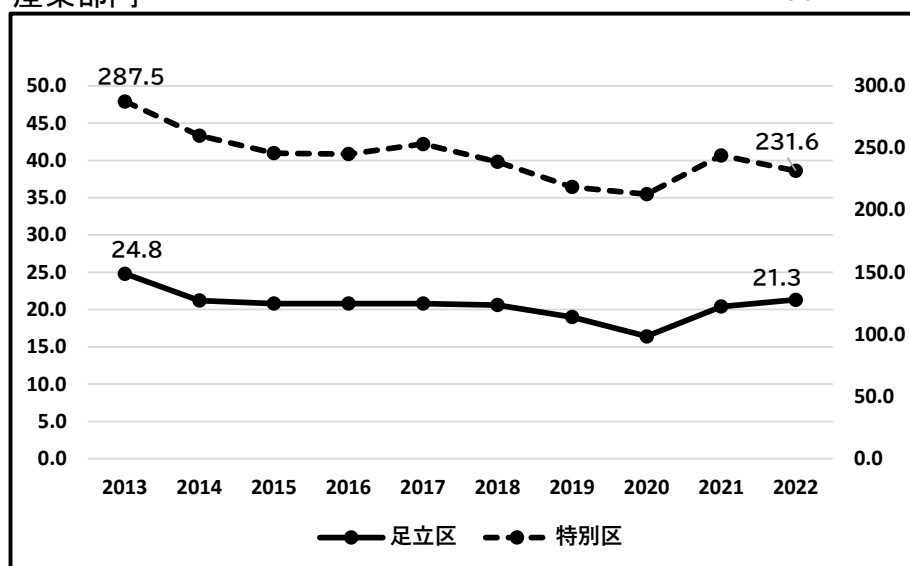
自動車部門

単位:万トン



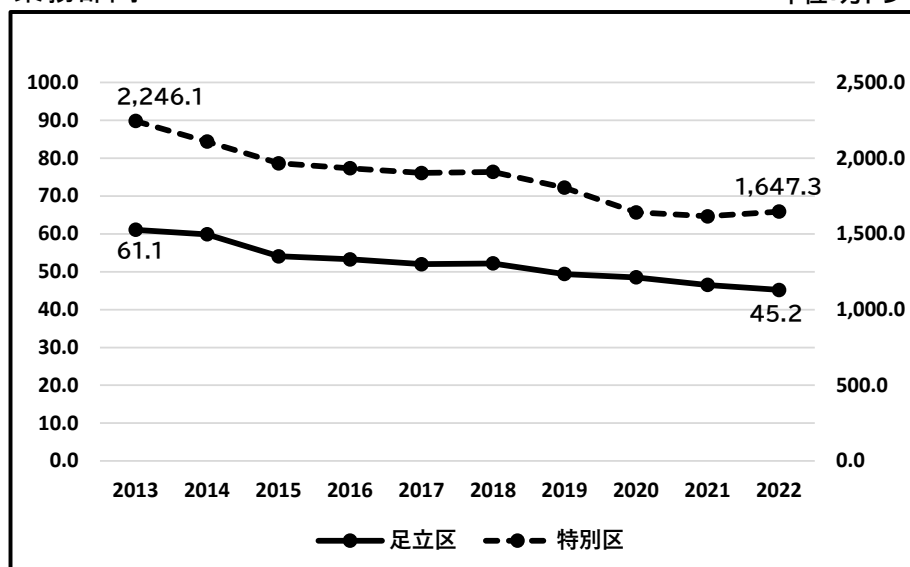
産業部門

単位:万トン



業務部門

単位:万トン



5 足立区及び近隣区のCO₂排出量及び増減率

(1) CO₂総排出量

	CO ₂ 排出量 (全部門合計)			区民一人あたりの CO ₂ 排出量 (全部門合計)		
	2021 年度 (万トン)	2022 年度 (万トン)	増減率	2021 年度 (トン)	2022 年度 (トン)	増減率
足立区	209.8	203.8	▲2.9%	3.02	2.94	▲2.6%
台東区	98.6	99.3	0.7%	4.64	4.67	0.6%
墨田区	105.8	102.9	▲2.7%	3.88	3.77	▲2.8%
江東区	271.8	266.2	▲2.1%	5.18	5.07	▲2.1%
北区	106.9	105.4	▲1.4%	3.02	2.99	▲1.0%
荒川区	60.9	59.3	▲2.6%	2.80	2.74	▲2.1%
板橋区	178.2	172.8	▲3.0%	3.05	2.98	▲2.3%
練馬区	177.8	173.2	▲2.6%	2.36	2.31	▲2.1%
葛飾区	128.8	124.8	▲3.1%	2.85	2.77	▲2.8%
江戸川区	194.8	189.8	▲2.6%	2.80	2.75	▲1.8%
23 区全体	3,965.0	3,916.3	▲1.2%	4.08	4.05	▲0.7%

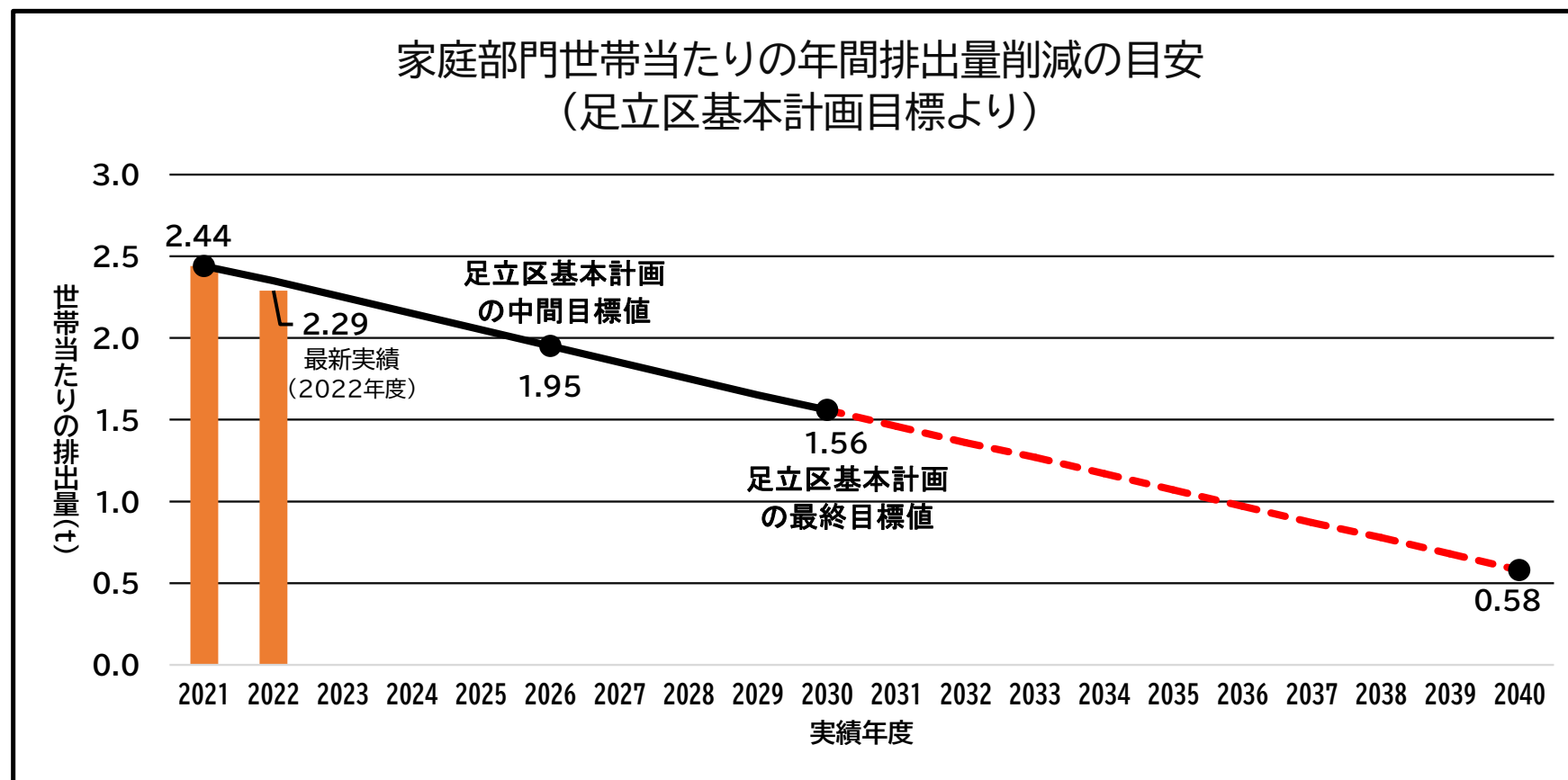
(2) 家庭部門のCO₂排出量

	CO ₂ 排出量 (家庭部門)			区民一人あたりの CO ₂ 排出量 (家庭部門)		
	2021 年度 (万トン)	2022 年度 (万トン)	増減率	2021 年度 (トン)	2022 年度 (トン)	増減率
足立区	87.5	82.8	▲5.4%	1.26	1.20	▲4.8%
台東区	34.1	33.3	▲2.3%	1.61	1.57	▲2.5%
墨田区	38.1	36.4	▲4.5%	1.40	1.33	▲5.0%
江東区	67.6	63.8	▲5.6%	1.29	1.22	▲5.4%
北区	45.3	43.3	▲4.4%	1.28	1.23	▲3.9%
荒川区	27.7	26.6	▲4.0%	1.27	1.23	▲3.1%
板橋区	73.3	69.7	▲4.9%	1.26	1.20	▲4.8%
練馬区	96.5	92.0	▲4.7%	1.28	1.23	▲3.9%
葛飾区	56.9	54.8	▲3.7%	1.26	1.21	▲4.0%
江戸川区	83.3	79.2	▲4.9%	1.20	1.15	▲4.2%
23 区全体	1,337.7	1,278.4	▲4.4%	1.38	1.32	▲4.3%

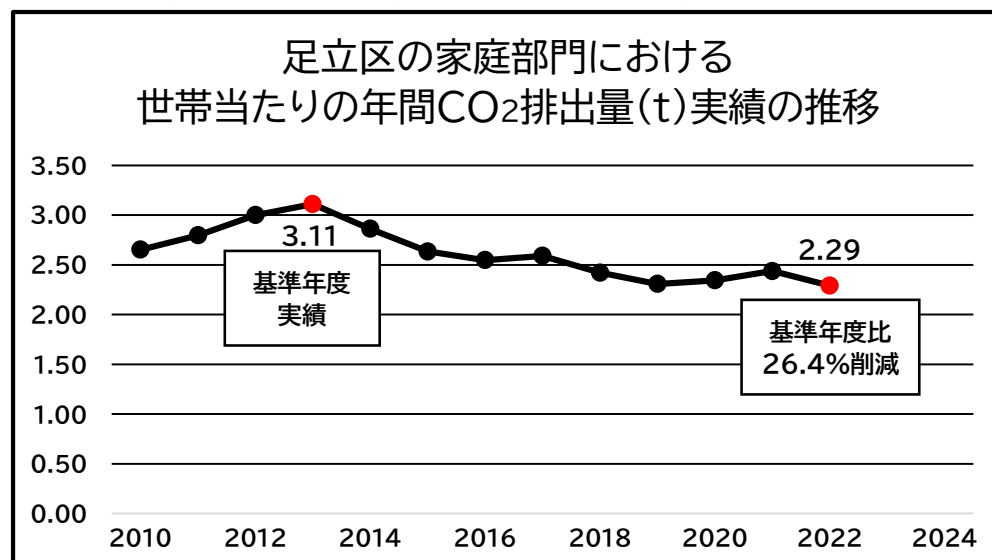
家庭部門のCO₂排出量関連データ家庭部門における世帯あたりの年間CO₂排出量の目標（2030）と目安（～2040）

【足立区基本計画指標】

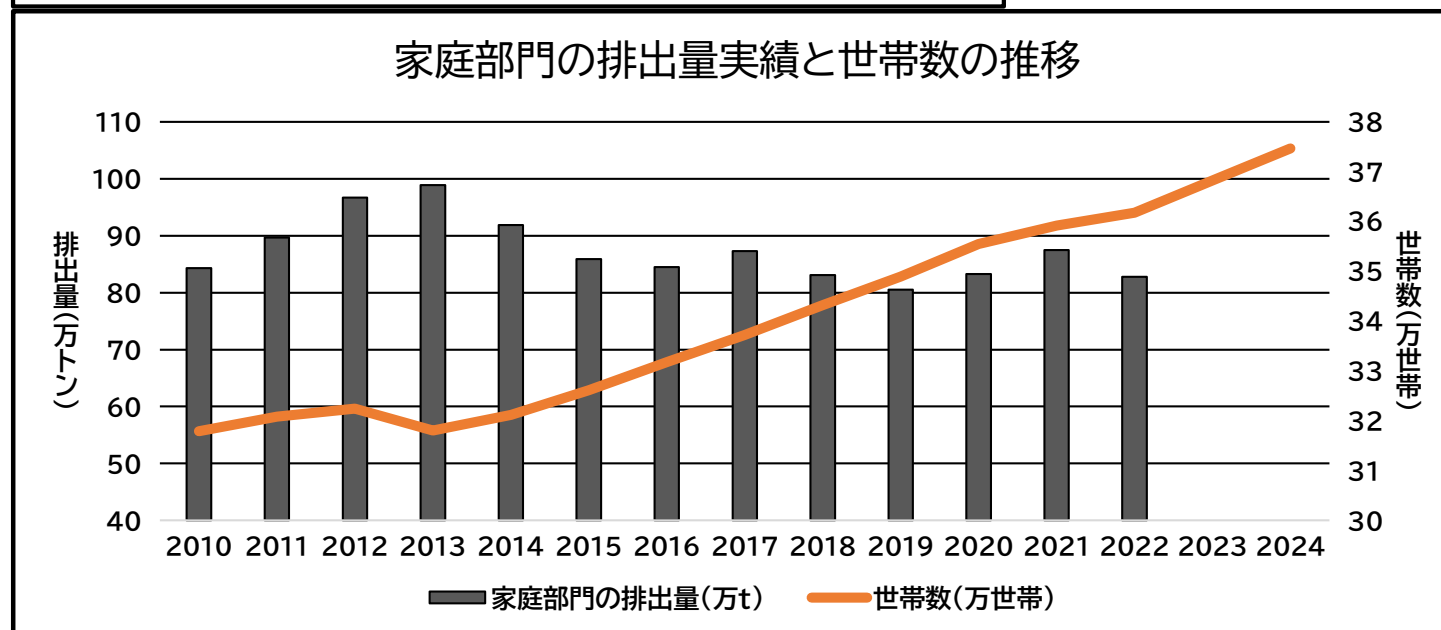
- ① CO₂排出量は2030年度目標を2013年度比46%削減と設定しているため、家庭部門は50%削減を想定。
（下げにくい運輸部門や廃棄物部門を考慮）
- ② オール東京の家庭部門の排出量と区HPの対象年度の4月1日時点の世帯数を使用。
- ③ 2013年度の家庭部門、世帯当たり排出量 $3.11 \times 0.5 \div 1.56$ を足立区基本計画における2030年度の目標とした。
- ④ 目標設定時の最新実績（2021年度実績）から足立区基本計画目標値である1.56に直線を引き、さらに2040年度まで延長させた。



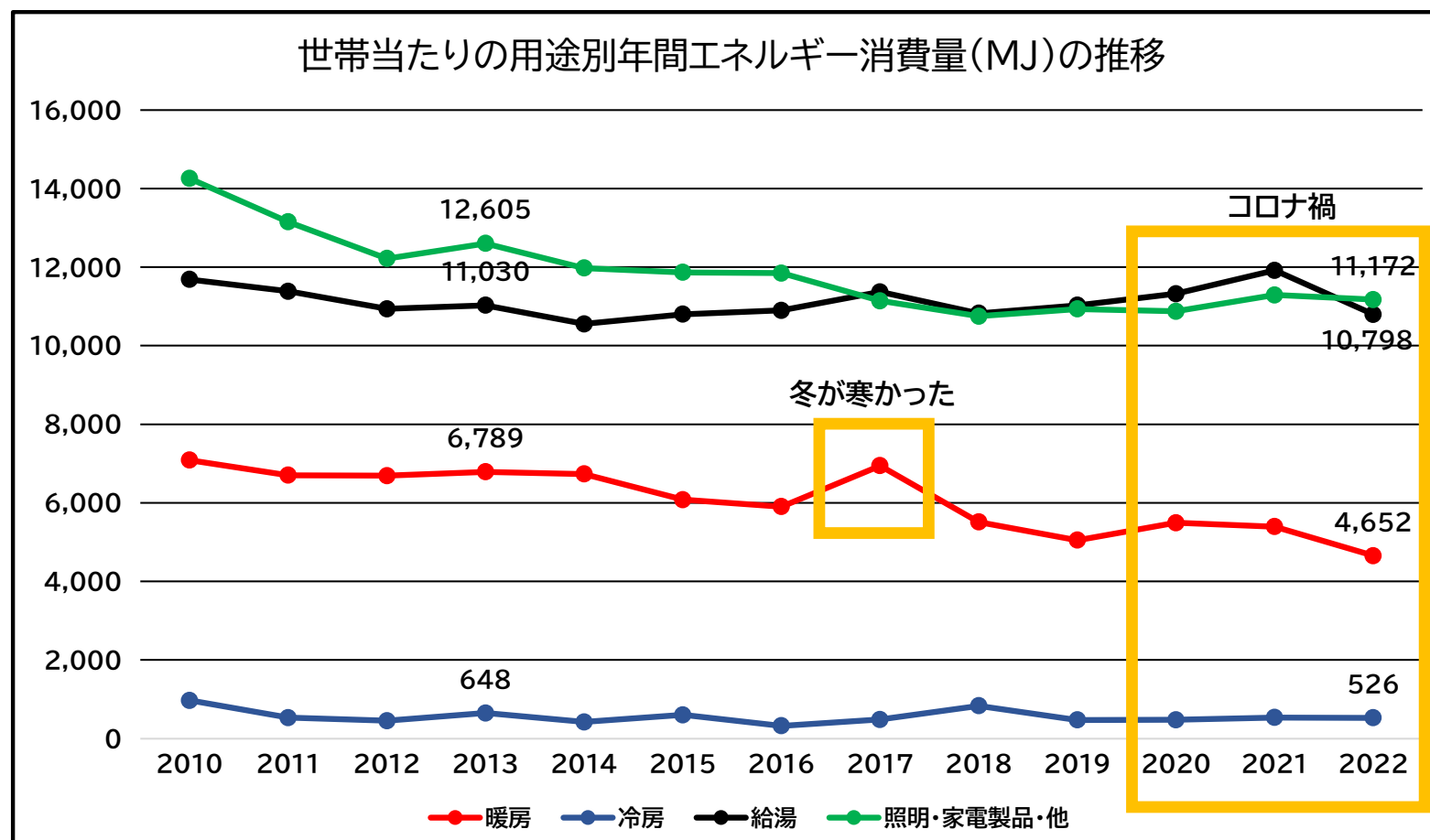
家庭部門の排出量を世帯当たりで見ると 2013 年度（基準年度）から 26%以上減少している。
 要因として、技術的進歩（省エネ機器への移行、電気の排出係数の減少等）や世帯当たりの人数の減少が考えられる。



CO₂ 排出量はコロナ禍で一時的に増加したものの、全体では減少傾向



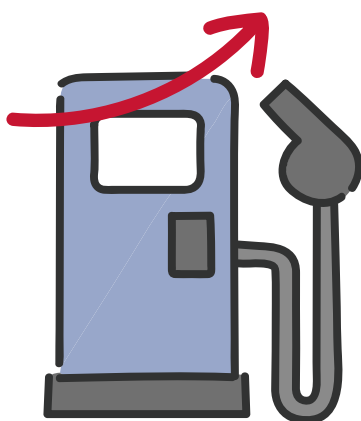
世帯当たりのエネルギー消費量を用途別でみると、給湯や照明・家電の利用が多い。
一般的に、エネルギー消費というと、冷暖房のイメージが強いが、実際には、特に冷房については他と比べ高くないことがわかる。
データを示し、正しく理解してもらうことで、夏場に冷房をためらわず使用してもらうことにつながり気候変動適応策となる。



＼ 光熱費をはじめとする燃料費の高騰が続き家計は大ピンチ！ ／

このピンチ、**脱炭素に繋がる 取組み**で乗り切りましょう！

ガソリン代



食品ロス



電気代



詳しい取組みの内容は中面へ

取組みやすさを★の数で示しています。

★★★★
皆さんが今日からできる取組みです。

★★★
家電の買い替えのときはご検討ください。

★
機会がある方はご検討ください。



簡単だけど効果的な省エネ

💰 節約金額 / 年間 CO₂ 削減量 / 年間

エアコン編

フィルターの掃除 (1～2回/月) 💰 900円 CO₂ 15.6kg

1時間以上の不在時は消す (1日1時間削減)
冷房 … 💰 580円 CO₂ 9.2kg
暖房 … 💰 1,260円 CO₂ 19.9kg

冬の暖房時の室温は20℃を目安に 💰 1,650円 CO₂ 25.9kg

冷蔵庫編

ものを詰めこみすぎない 💰 1,360円 CO₂ 21.4kg

壁から適切な間隔で設置 💰 1,400円 CO₂ 22.0kg

季節に合わせて設定温度を変える 💰 1,910円 CO₂ 30.1kg

照明編

白熱電球をLED電球に交換する 💰 2,790円 CO₂ 43.9kg

点灯時間を1日に1時間短くする
蛍光灯 … 💰 140円 CO₂ 2.1kg
白熱電球 … 💰 610円 CO₂ 9.6kg
LED電球 … 💰 100円 CO₂ 1.6kg

給湯編

食器を洗うときは低温で 💰 1,430円 CO₂ 19.7kg

入浴は間隔を開けずに入って追い炊きを減らす 💰 6,190円 CO₂ 85.7kg

シャワーは不必要に流したままにしない 💰 3,210円 CO₂ 28.7kg

他にもたくさん！省エネ方法！

- ・無理のない省エネ節約（資源エネルギー庁）
- ・家庭の省エネハンドブック（東京都環境局）
（節約金額とCO₂削減量の出展もこちらです。）



紹介した省エネ方法の実践で、
節約できる可能性のある光熱費は **年間 23,530円**



食品の食べきり、使いきり

家庭から出される食品ロスは **年間 21,039円相当** ※1
金額にすると1人あたり

計ってみよう！家庭での食品ロス

まずはご自身がどんな食品を余らせがちか知ってみませんか？

買い物や調理のポイントもこちら

⇒「家庭での食品ロスを減らすために」（消費者庁）

それでも食品が残ってしまったときは、「フードドライブ」へ

「食品ロスを減らしましょう！」



※1 令和4年度の家庭ごみの組成調査による食品ロス推計量、令和5年3月1日現在の足立区の人口、農水省の食品価格の動向（令和5年3月13日の週）から1kgあたりの価格を算定できた32品目の平均価格より推計



燃費をよくするエコドライブ

エコドライブの実践で節約できる可能性のある燃料費は **年間 10,462円** ※2

Step1：まずは確認してみましょう

タイヤの空気圧から始める点検・整備



不要な荷物はおろそう



エアコンの使用は適切に



Step2：運転するとき心がけましょう

ふんわりアクセル「eスタート」



車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転



減速時は早めにアクセルを離そう



Step3：運転マナーでも燃料の節約につながるがあります

ムダなアイドリングはやめよう



渋滞を避け、余裕をもって出発しよう



走行の妨げとなる駐車はやめよう



※2 COOLCHOICE エコドライブ 10 のすすめより、ふんわりアクセル、加速・減速の少ない運転、減速時は早目にアクセルを離す場合の燃費改善を、走行距離を年間6,000km、推定燃費を17.6km/ℓ、ガソリン代を180円/ℓ、アイドリングは30kmごとに4分間の割合で行うと仮定して推計

補助 マークの取組みには**補助事業**があります。詳しくは裏面の QR コードからホームページをご覧ください。



補助

省エネ型製品への買い替え

10 年前の機器からの買換えにより節約できる光熱費は

◆エアコンで ※3 年間 **6,634 円** ◆冷蔵庫で ※3 年間 **5,265 ～ 7,020 円**

※3 家庭の省エネハンドブック (東京都環境局) より



補助

ZEV (ゼロエミッション・ビークル) への買い替え

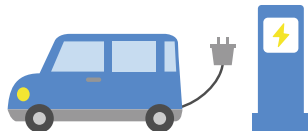
ZEV (ゼロエミッション・ビークル) とは？

走行時に CO₂ 等の排出ガスを出さない電気自動車 (EV) や燃料電池自動車 (FCV)、プラグインハイブリッド自動車 (PHEV) のことです。

ガソリン車から電気自動車 (EV) への乗り換えで節約できる燃料費は

※4 年間 **34,792 円**

※4 ガソリン車の推定燃費を 17.6 km / l、電気自動車 (EV) の平均電費を 7 km / kWh、ガソリン代を 180 円 / l、電気代を 31 円 / kWh と仮定し、年間の走行距離を 6,000 km と想定して推計



補助

太陽光発電設備の導入

- 自家消費で**電気代の節約**になります。
- 余った電気は売ることができます。
- 停電時にも**電気**が使えます。



補助

住宅の高断熱・省エネルギー化

- 高性能の断熱材や窓を用いれば**冷暖房費の節約**になります。
- 省エネ性能の高い照明やエアコンの活用で光熱費を更に節約できます。
- 快適な住環境は、ヒートショックの抑制など健康面にも効果があります。

その他、脱炭素に繋がる取組み

生ごみ処理機の利用

補助

乾燥させてごみを軽く

水分を減らすことで焼却にかかるエネルギーを減らし、CO₂の排出を削減できます。

再エネ100%電力への切替え

補助

電気の契約を再生可能エネルギー 100% のプランに見直すことで、電気の使用に伴う CO₂ 排出を削減できます。



雑がみは資源に

燃やすごみの中には、**資源になる雑がみが9.3%**※5含まれています。

雑がみとは？

新聞 (折込みチラシを含む)、雑誌、段ボール、紙バックのいずれの区分にも入らないものをいいます。
例えば、**投込みチラシ、パンフレット、コピー用紙、お菓子などの包装紙、紙箱、メモ用紙、ノート、封筒、手紙、ラップの芯、紙袋**などです。

雑がみの出し方

資源の日に、紙袋に入れて出すか、雑誌と一緒に束ねてひもなどで縛って出してください。

詳しくはこちら

⇒「古紙と一緒に回収される雑がみとは？」

※5 令和4年度 燃やすごみの組成調査より



脱炭素への支援

家庭用燃料電池システム（エネファーム） 設置費補助金（区）

補助額等

区内の住宅に家庭用燃料電池システム（エネファーム）を設置した方へその経費の一部を補助します。



5万円

太陽光発電システム設置費補助金（区）

補助額等

太陽光発電システムを設置した方へその経費の一部を補助します。



補助対象
経費の3分の1
上限24万円

節湯型シャワーヘッド購入費補助金（区）

補助額等

節湯型シャワーヘッドを新品で購入した方へその経費の一部を補助します。



3千円

集合住宅・事業所等 LED 照明設置費補助金 【事業者・集合住宅向け】（区）

補助額等

区内の公共的施設、中小規模事業所、集合住宅（共用部分のみ）の改修に併せてLED照明を設置する事業者へ、その経費の一部を補助します。



補助対象経費
の3分の1
上限30万円

家庭における太陽光発電導入促進事業 （東京都）

補助額等

太陽光発電の導入に対し、東京都が実施する事業です。



建物種別、
導入容量等
により異なる

省エネリフォーム補助金（区）

補助額等

区内の既存の住宅に省エネルギー化を目的とした改修を行った方へ、その経費の一部を補助します。
（工事着工前の申請が必要です。）



補助対象
経費の3分の1
上限5万円

東京ゼロエミポイント（東京都）

補助額等

省エネルギー性能が高いエアコン、冷蔵庫、給湯器、LED 照明器具に買い替えた方へポイントを付与し、ポイント数に応じた商品券と LED 割引券を交付します。



家電の
種類や機能で
異なる

既存住宅における省エネ改修促進事業 （高断熱窓・ドア・断熱材）（東京都）

補助額等

省エネ性に優れ、災害にも強く、健康にも資する断熱・太陽光住宅の普及拡大を促進するため、高断熱窓・ドア・断熱材への改修に対して補助します。



補助対象
経費の3分の1
上限額は導入
設備により
異なる

電気自動車等購入費補助金（区）

補助額等

四輪の電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、ミニカー、並びに電動バイクを購入した方へ、その経費の一部を補助します。



左記自動車
10万円
ミニカー、電動
バイク2万円

東京ゼロエミ住宅導入促進事業（東京都）

補助額等

東京ゼロエミ住宅※を新築する方へその経費の一部を補助します。
※「東京ゼロエミ住宅の認証に関する要綱」に基づき、都に登録された認証審査機関から東京ゼロエミ住宅認証書の交付を受けた住宅



導入する
機器の種類や
設置する
住宅の種類に
より異なる

戸建住宅向け電気自動車等用 充電設備設置費補助金（区）

補助額等

戸建住宅に電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車への充電が可能な充電設備を設置した方へ、その経費の一部を補助します。



2万5千円

再エネ 100 電力サポープラン協力金（区）

補助額等

電力契約を「再生可能エネルギー100%電力」メニューに切り替えた方へ協力金を支給します。



2万円

燃料電池自動車等の普及促進事業・ 電気自動車等の普及促進事業（東京都）

補助額等

燃料電池自動車（FCV）、電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド自動車（PHEV）を導入する個人、事業者等に対して、その経費の一部を補助します。



車両区分、機能、
再エネ電力の
導入の有無等
により異なる

生ごみ処理機・ コンポスト化容器購入費補助金（区）

補助額等

生ごみ処理機（乾燥式・バイオ式）またはコンポスト化容器を購入した方へ、必要な経費の一部を補助します。
※令和6年3月までは上限1万5千円



本体価格の
2分の1※
上限2万円

(参考) 区の脱炭素施策を費用対効果で比較

区の脱炭素関連事業の令和6年度実績をCO₂排出削減量1トンあたりの事業費で比較した。事業費と排出量による算定で、人件費等は含んでいないため、参考値としてご確認いただく。

	事業名	事業実績	事業費 (決算額)	CO ₂ 削減量	排出削減量1トン あたりの事業費	備考
1	太陽光発電システム設置費補助	補助件数 640 件	134,832 千円	1,288.1 トン	104,675 円	
2	電気自動車購入費補助	補助件数 331 件	33,280 千円	139.0 トン	239,424 円	ガソリン車→EV の排出量の差（排出削減量 0.42 トン/台）を想定
3	LED照明設置費補助	補助件数 95 件	19,374 千円	218.5 トン	88,668 円	
4	省エネルギー対策工場設備更新補助	補助件数 4 件	9,975 千円	12.0 トン	831,250 円	補助を活用した設備の入れ替えで10%程度のCO ₂ 削減を見込んでいる
5	再エネ 100 電力導入サポートプラン協力金	支給件数 143 件	2,860 千円	180.5 トン	15,845 円	
6	プラスチック分別回収モデル事業		133,896 千円	1,526.5 トン	87,714 円	
7	カーボンオフセット		2,200 千円	200 トン	11,000 円	魚沼市の森林吸収系クレジット購入
8	(参考) PPAモデルを活用した学校への太陽光発電システム導入	1 校 (2 か月分)	295,168 円	3.5 トン	84,334 円	令和7年5月受電開始 2 か月間の発電分は全て自家消費

(参考) 子ども・若者の意見を反映

1 上位計画（足立区基本計画）の理念（足立区基本計画審議会答申より）

【子ども・若者と一緒にまちを作っていく】

子ども・若者は、一人ひとりが権利の主体であり、大人と同様に地域社会の一員である。

まちを一緒に作っていく主体として位置付け、年齢に関わらずすべての区民がそれぞれの立場から、より良いまちを実現するために区の未来を描いていく仕組みづくりを進める。

2 意見の集約

区の情報収集ツールを活用したアンケート実施や若者会議の開催により子ども・若者の意見を集約。

(1) 実施概要

① 高校へのアウトリーチによる若者会議の実施

日時 6月11日（水）午後3時から5時まで
会場 都立足立高校
対象 都立足立高校生徒会
参加者数 16名

② 公募による若者会議

日時 7月11日（金）午後7時から9時まで
会場 あやセンターぐるぐる
対象 足立区在住・在学・在勤・ゆかりのある若者
（15～30歳）
参加者数 11名（応募20名）

③ 区ホームページで実施するアンケート「きかせてみんなのいけん」

期間 令和7年5月8日から6月22日まで
対象 子ども（小、中学生）
（生徒・児童用タブレットから直接回答ができ、多くの回答が望める）
高校生・若者（概ね30歳まで）
未就学児の保護者

回答数 175件
（内訳）子ども 126件
高校生・若者 25件
未就学児の保護者 24件

(2) 主な意見

【若者会議（高校生）意見】

- ① 季節感の変化（春・秋がなくなった）
- ② 分別の乱れ（ペットボトルのリサイクルボックスにごみが入っているなど）
- ③ リサイクルの過程やごみの埋立までの工程等を見学・体験によって知ることによって「自分ごと」になる

若者の行動へのキーワード

「見える化」「体験」「わかりやすさ」「映像・視覚」「楽しみながら実践」

詳細は別冊資料集 3-①「あだち若者会議（高校アウトリーチ）の意見及び方策の方向性」参照

【若者会議（公募型）意見】

- ① ゲーム形式、遊び感覚でのごみ、プラスチックを分別する
- ② 大人の社会見学（ごみ処理やリサイクルの見える化）
- ③ ショート動画作成（関心を惹く、印象に残る）
- ④ 民間企業の取り組みから環境問題や対策を知る、学ぶ（マクドナルド、ユニクロ）
- ⑤ 環境問題を自分自身の問題として捉えてもらう周知（マイクロプラスチックを気付かないうちにたくさん食べている）
- ⑥ 排水の浄化やリサイクルなどにはお金と時間がかかることを知ってもらう（周知・見学・動画等）

➡意見から見える啓発・行動変容のテーマ

- ① 身近な問題、「自分ごと」として感じてもらうことで積極的に取り組むことができる。
- ② みんなで取り組む、参加型の活動とする工夫が必要。
- ③ 楽しみながらできる活動とすることで若者を巻き込むことができる。
- ④ 日常生活の中でルール化する（例：学校のルールで分別していれば家でも自然に取り組むことができる）。

意見や分析内容については別冊資料集 3-②「あだち若者会議（公募型）の意見及び方策の方向性」を参照

【アンケート「きかせて みんなのいけん」の意見】

- ① 地球の環境に問題があるといわれたとき、まず思い浮かべるのはどんなことですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
地球の気温が上がっていること	91 人	72%
海ごみやマイクロプラスチックのこと	68 人	54%
生き物が減ったり絶滅したりすること	66 人	52%
ごみを減らさないといけないこと	57 人	45%
食べ物がたくさん無駄になっていること	50 人	40%
とくに思い浮かばない	5 人	4%
そのほか	4 人	3%

- ② 地球温暖化について

ア いま地球の気温が高くなってきていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	110 人	87%	58 人	97%
聞いたことはある	11 人	9%	2 人	3%
知らない	5 人	4%	0 人	0%

イ 地球が熱くなってきているのは、空気の中の二酸化炭素が増えているからといわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	90 人	71%	56 人	93%
聞いたことはある	19 人	15%	4 人	7%
知らない	17 人	14%	0 人	0%

③ あなたが、地球環境を守るためにみんなにして欲しいこと
(自由意見)

ア まちなかのごみやポイ捨てについて
① ゴミはポイ捨てをしないで、分けてゴミ箱に捨てる (同一意見多数) ② 街にゴミが落ちていたら、見て見ぬふりをしないで自分から拾ってほしい ③ 学校の授業でゴミ拾いの活動をする
イ まちの緑化や自然環境の保護について
① 道路の横に木を植えてほしい ② 自然豊かな大きな公園を作って欲しい ③ 自然を大切にしたいので、木を切りすぎないでほしい ④ 木の家を積極的に作って欲しい
ウ 食品ロスについて
① 食べ残しがないようにしてほしい (同一意見あり) ② 食べきれ的分だけ買ったり、食べたりする ③ 食べ物を作るのは、いろいろな人が関わっていて沢山の命が奪われて作られているから、その事を忘れないで食べ物を粗末にしないでほしい
エ エコライフの実践と普及
① エコバッグで買い物をするやマイボトル (水筒) を持ち歩くは簡単にできるからみんなにしてほしい (同一意見あり) ② 電気、水、ガス、を大切に使う (同一意見あり) ③ ソーラーパネルをいっぱい作ってください ④ 二酸化炭素を多く出す車を使用するのはなるべく、避けて電車やバスを利用してほしい ⑤ 長く使えるものを買う、使う
オ 意識啓発と教育の重要性
① もっとテレビやネットで、環境問題を取り上げて、身近な生活の一部が環境に優しくなれるように活用できるようにしてほしい ② 環境についてほんとに正しいのかを学校で講演会を開くなどして教えてほしい (例: 紙ストローは本当に環境のためになっているのか、地球温暖化は二酸化炭素がすべて原因なのか) ③ 子どもから高齢者までが楽しめるイベントを作って沢山の人が参加してほしい

詳細は別冊資料集 3-③「きかせて！みんなのいけん（アンケート）」
結果概要」を参照

あだち若者会議（高校アウトリーチ）の意見及び方策の方向性

テーマ①：最近、環境に関する情報を見ましたか？

生徒が日常生活でどのような環境情報に触れているか、またどのような環境課題を認識しているかが示されています。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
A 気候・気象に関する体感	① 季節感の変化（春・秋がなくなった） ② 夏の暑さ ③ 気温差	① 熱中症対策、クールスポット整備 ⇒気候変動を「自分ごと」として捉えてもらうための仕組みの検討
B CO ₂ 排出	① エアコン使用による CO ₂ 排出	① エネルギー使用と省エネの取り組みによる効果の「見える化」 ② 気候変動対策「適応」への理解の浸透 ③ 再エネ導入支援（太陽光・燃料電池）の充実
C ごみ・プラスチック関連	① 埋立地問題 ② 分別の乱れ（ペットボトルのリサイクルボックスにごみが入っているなど） ③ ストローの素材変更 ④ アルバイト先のフードロス ⑤ 生ごみ処理機の補助金 ⑥ 学校で子供服の回収を実施 ⑦ グッズ付商品のフードロスやポイ捨て ⑧ アップサイクルアプリの活用	① ごみ処理の現状とリサイクル工程の「見える化」 ② フードドライブ、フードシェアリングサービス推進 ③ プラ製品の利用削減、分別、リサイクルの推進 ④ 分別ルール周知強化 ⇒循環型社会の構築に向けた、ごみ減量・分別・リサイクルの意識向上と実践の促し ⑤ 給水スポットの普及
D 学校生活（授業・課題・オープンキャンパス）で触れた情報	① フードドライブ（家庭科） ② プラスチック問題に関するディベート ③ 海洋プラスチック問題（英語の教科書） ④ スポ GOMI 体験 ⑤ 水の循環や大切さの授業	① 実践型環境教育の拡大（体験型） ② デジタル教材の積極的活用 ⇒学校教育と連携した環境学習をさらに推進し、実践的な学びの機会を増やす。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
E 社会・経済との関連	① 物価高、米不足、補助金、企業イメージへの影響	① エコ行動の経済的メリットの提示 ② エコ製品購入促進・補助制度周知 ⇒環境行動が経済的メリットにつながることを具体的に示し、持続可能な消費行動を促す。
F 生態系や海外の環境問題	② 発展途上国の医療環境 ③ 生態系の変化への興味	① 生物多様性の大切さの啓発 ② 国際的課題の講座等 ⇒生物多様性や地球規模の環境課題に対する理解を深める学びの機会の提供。
G その他	① 水汲みステーション（給水スポット） ② 家庭菜園や緑のカーテン ③ たばこの吸い殻で投票するごみ箱の設置（イギリス）	① マイボトル・給水スポット拡充とマイボトル利用の更なる周知 ② 家庭緑化の支援 ⇒日常生活で実践できる具体的なエコ活動の推進。 ③ 楽しみながら実践する環境活動

傾向

情報の入手先➡①個人の実感（気温やごみの状況） ②学校や家庭 ③SNS、メディア

印象に残りやすい➡①授業や課題、体験学習による新たな学び ②「自身の生活」や「学校生活」とつながっている情報

その他

- ① 環境配慮のためとはいえ、偏った（極端な）取り組みは、消費者への我慢の強要、企業のマイナスイメージになるのでは（環境対策と経済・企業活動のバランスへの問題意識）
- ② 実践的な学びや楽しんで参加できる活動を求めている
- ③ リメイクやリサイクルへの理解や取り組みは若い世代の方が進んでいる（当たり前ものとして受け入れている）
- ④ 日常の授業や生活の中にある環境の要素をしっかりと感じ取って問題意識を持っている（教科書への記載、ペットボトルのリサイクルボックス）

テーマ②：プラスチック分別を実行してもらうには？

プラスチックの分別をテーマにどのように情報が届くと行動しやすいか示されている。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
A 情報発信・広報の工夫	① SNS (Instagram, TikTok, X, YouTube など) での発信 ② ショート動画 (5 秒で興味をひき、15 秒程度の尺) の発信を自分たちが拡散 ③ 動画でダンスや流行の曲の活用 ④ インフルエンサー・広告の工夫 (広告を出しすぎると嫌悪感に繋がる) ⑤ クイズ形式での啓発、文化祭などイベント連動、曲で覚える ⑥ ごみの種類の調べ方も合わせて発信 ⑦ 既存の取組み (キャップの回収) も発信 ⑧ 商業施設にポスターを掲示し、来た人に意見をもらえるようにする ⑨ 区のキャラクターを活用した P R	① SNS×音楽 ② インタラクティブ (※) 広告 ※ 双方向の情報のやり取りができるシステム ⇒若年層に効果的なデジタル媒体を積極的に活用した情報発信。 ③ 受け手 (若者) に合わせた情報発信方法の工夫 ④ 若者 ➡ 若者の発信
B 行動につながるしくみや仕掛け	① 何故分別が必要なのか仕組みや実態を視覚的に示す ② 商品券を渡すインセンティブ ③ ごみ袋に名前を書くなどルール of 厳格化 ④ 商品のプラマークを大きくする ⑤ 置き場所やごみ箱の設置を増やす	① 行動による成果の「見える化」 ② エコ活動に対するインセンティブの付与

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
C 学校・生徒を活用した取り組み	① 生徒間の共有が効果的 ② 学校での取り組み（お昼の放送、朝学習、イベント連携） ③ 環境教育の習慣化	① 同世代教育の推進（教師から生徒よりも、生徒から生徒の情報伝達の方が効果が高い） ② 継続的な環境教育の仕組み ⇒学校との連携による環境学習や啓発活動の実施。
D 見て・体験する機会	① 実物を見せる（プラごみ、工場見学） ② 見学・体験によって「自分ごと」化される ③ イベントと合わせた（プラスチック分別の）説明会	① 清掃工場・施設の見学拡充 ② 環境イベントと連携した説明会 ⇒現場見学・体験学習の機会の充実。
E 家庭の影響	① 親（家庭）の習慣の影響で自然と意識が高まる	① 家庭内で環境行動が自然と実践されるような啓発資料やオンラインコンテンツ ⇒家庭で環境意識を高め、実践できるプログラムの開発。
F 制度について	① プラごみの回収頻度検討 ② 自販機のリサイクルボックスの増設	① リサイクルボックスの増設（無くす）や管理方法の検討

傾向

情報発信の工夫➡SNS が最も多く、動画・音楽・クイズ・広告など若者らしい感覚での工夫が目立つ。

プラマークの表示の大きさ…わかりやすさ

インセンティブ…取り組みで得られるメリット

動画の長さ、情報のすべてではなく印象に残すことを重視（若者の視点）

行動喚起で重視する点➡「見える化」と「体験」

学校や家庭での習慣の影響も大きい

テーマ③：やってみたい環境活動は？

生徒が積極的に参加したいと考える具体的な環境活動が示されています。

分類	意見	方策の方向性の提案
A 参加したいイベント・体験活動	① 清掃工場の見学、ごみ収集車試乗 ② スポ GOMI、足立区の催し物 ③ 高校生対象の環境授業、海辺のごみ拾い ④ リサイクルの過程を見える化	① 実体験型イベントの実施 ② 環境授業の実施 ③ ごみ拾いを絡めた屋外イベント実施 ⇒若年層のニーズに応える体験型の環境活動の充実。
B 学校を拠点にした取組	① 教室での掲示、学生同士で分別について呼びかけ ② 放課後ではなく授業でのごみ拾い ③ 課外授業で海辺のごみ拾い ④ 「足立若者宣言」として実行したい活動を書いて写真をネットに掲載する	① 学校イベントでの発信協力 ② 区の情報で学内で届けるしくみ ③ 同世代教育の有効活用 ⇒学校と連携した、生徒が自分ごとと考えられるような情報発信の工夫。
C 日常生活で意識していること・したいこと	① エアコン節電、節水、ごみを出さない ② リサイクルの意識 ③ 緑のカーテン、家庭菜園、生物部の畑 ④ 環境マークに注目する ⑤ 潰せるごみは潰し、そもそもごみを出さない	① 省エネ啓発、環境マーク紹介 ② リデュース・リユースの習慣化 ⇒具体的な行動の啓発による持続可能な消費行動の促し。
D 意識のきっかけ	① 埋立地の問題が「自分たちの世代に関係ある」と理解すると行動につながる ② 見える化によって記憶に残りやすい	① ビジュアルで記憶に残る啓発教材の活用 ⇒視覚的な情報発信。 ② 将来像（取り組んだ未来と取り組まない未来）と併せた姿の発信
E その他	① RICE MEDIA が YouTube や Instagram で発信している環境情報は面白いのでみんなの見てもらいたい	① 影響力のあるクリエイターを参考にした動画製作 ⇒若者に届く映像発信。

傾向

「見える化による理解」と「体験」が若者の行動変容への近道
自身が主体となる発信方法については学校をベースにしたアクション提案が多い
映像による情報発信の影響力が大きい

全体から見える傾向

- ① SNS や動画など、若者らしい情報への接し方・発信方法が重視されている
- ② 細かな情報（量）よりもまずは印象に残ることが重要
- ③ 学校・家庭・生活習慣など、身近な環境からの気付きが多い
- ④ 自ら体験することで強く印象に残り意識の変化につながる
- ⑤ 若者 ➡ 若者の発信の方がより共感を得やすい、影響が大きい
- ⑥ 「見える化」「体験」「わかりやすさ」「映像・視覚」「楽しみながら実践」がキーワード

あだち若者会議（公募型）の意見及び方策の方向性

テーマ①：最近、環境に関する情報を見ましたか？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A ゴミ分別	① 細かい分別に対する負担感や不安感 ② 幼少期の愛知万博での詳細な分別体験と現在の分別品目の少なさとのギャップ	① 写真やショート動画での発信 ⇒分別ルールを視覚的、直感的に分かりやすく伝えるための発信方法
B プラスチック問題	① 世界規模の海洋プラスチック問題 ② マイクロプラスチックの健康影響に対する関心	① 環境と健康の関連性を強調した情報発信 ⇒環境問題が個人の健康や日常生活と密接に関わる「自分ごと」とであるという認識を持ってもらう工夫
C 区補助金	① コンポストの補助金を知り関心が高まるも、手間や臭いへの不安があり実行に移せない	① 周知（知ってもらう）とは別に丁寧な利用法の発信（動画） ⇒取り入れる際の心理的ハードルを下げる
D 温暖化・環境問題	① 地球温暖化によるホッキョクグマの生息地減少 ② 沖ノ鳥島の水没危機に対しサンゴの自生拡大で土地を広げる取り組み ③ 合成洗剤から純石鹼に替えることによる生活排水の改善 ④ 自動車排ガスと温暖化への理解、EV への期待	① 環境問題に対する具体的な解決策と区民の行動の関連付け ⇒生活排水の改善、EV 導入など、個人が取り組める具体的な行動が地球温暖化対策にどう貢献するかを分かりやすく示す
E ポイ捨て問題	① 街中や荒川に不法投棄されたごみの増加を実感、清掃活動の限界を感じている	① 見守りの体制構築と併せ「ポイ捨てをしない」意識の醸成

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
F 環境配慮の実践例	① マイバック、マイボトルの活用 ② インセンティブ（金券、ポイント）による行動の変化（例：店舗に使用済み品を持ち込む） ③ ウォーターサーバーの利用 ④ シェアサイクルやリモート活用 ⑤ エコマーク商品購入意識の高まり ⑥ フードドライブやフードバンクを通じた食品ロス削減の取り組み	① 「新たなライフスタイル」としての提案 ⇒ウォーターサーバー シェアサイクル リモートワーク 既に区民が実践している環境配慮行動を「環境にやさしく、かつ快適でメリットのあるライフスタイル」として積極的に発信、推奨
G その他	① 環境が守られている国や地域では、幸せな国のランキングも上がり、犯罪数も減少する傾向にある ② ウミガメを保護するための費用が不足しツアー参加費の上乗せで賄う等環境保護による観光への影響（地域経済と環境保護の両立）	① 環境と「ウェルビーイング」の関連性を明確化して発信 ⇒環境保全が個人の幸福感と社会の持続的な発展に繋がることを、具体的な事例（幸福度ランキング、犯罪率など）を交え啓発 ⇒環境活動が「我慢」ではなく「よりよい未来を創るポジティブな選択」であるというメッセージ

傾向

参加者は環境問題に強い関心を持ちつつも、「手間がかかる」ことへの抵抗感が行動の障壁となっている。負担感を和らげる丁寧な説明とともに、インセンティブの付与などを効果的に活用することで行動変容につながる。

環境問題を「自分事」として認識し、健康や日常生活との関係性を意識する傾向も強まっている。YouTube などの多様な情報源も関心の高まりに寄与しており、身近な取り組みは実践されやすい一方、ゴミ分別の現状への不安なども見られた。また、環境と幸福度の関係に着目するなど、若者の意識の広がりも確認できた。

テーマ②：プラスチック分別を実行してもらうには？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A 現状の課題認識	① 開始時期等、周知不足 ② 可燃ごみの収集回数減や分別ルールへの不安	① SNS（TikTok 等ショート動画）、駅のデジタルサイネージなど若者が多く目にする媒体を利用した周知 ② Q&A 形式で分かりやすい情報を提供し、オンライン等相談窓口の充実 ⇒不安を解消させる発信とサービス体制
B 分別ルールの理解	① 回収対象、洗浄の必要性、大型のプラ製品の扱いなどの周知の必要性	① イラストや写真、動画を多用した「分別ガイドブック」をウェブコンテンツで分かりやすく提供 ⇒継続的に実施してもらうための工夫
C 習慣化の可能性	① 厳格なルールの設定（ゴミ袋に記名など） ② 実践により慣れていくことで日常化していく ③ プラマークでの判断経験	① chatbot 等分別支援ツールの導入 ⇒継続的に実施してもらうための工夫

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
D 若者向け啓発策	① 家庭向け広報より大学や企業へのアプローチ ② 定期的な専用袋の配布 ③ リサイクルの成果の「見える化」 ④ TikTok 等でのショート動画広報、インフルエンサー活用 ⑤ 分別競争イベント、金券配布などのインセンティブ導入 ⑥ ごみ処理見学等、現場を見て理解を深める取り組み ⑦ 駅のデジタルサイネージの活用 ⑧ CO ₂ 削減の重要性、自身の健康への影響を理解させる教育	① 商工会議所等を通じた各事業所への周知協力依頼 ② 大学や企業と連携し、学園祭や新任研修時に脱プラチャレンジの展示や環境分野のワーク等を実施 ③ 資源化過程の動画、見学会 ④ 環境貢献を具体的な数値や事例（分別によって削減された CO ₂ 排出量や再利用されたプラスチック製品など）を用いて定期的に公表 ⑤ 駅のデジタルサイネージで、短く視覚的に訴求するコンテンツを放映 ⇒若者の生活圏へのアプローチ
E 教育現場との連携	① 学校での環境教育、実験体験、コンテスト ② 高校生向けに、大学との連携プログラムで環境に関する専門的な授業や実験体験の提供	① 大学と連携し、専門性の高い環境学習プログラム（実験やフィールドワーク）の提供 ⇒環境問題と合わせて、大学生活を経験するメリット
F ゴミ箱の改善	① 音や光、ゲーム性などを活用した楽しいごみ箱の提案	① 街中にインタラクティブなごみ箱を試行導入 ⇒日常に楽しみながら取り組める仕組み
G ごみ削減意識	① そもそもごみを出さない生活スタイルの推進	① マイバック、マイボトルの更なる利用促進 ② 食品ロス削減（フードドライブ、フードバンクの周知・推進） ③ 量り売り店舗の推奨 ④ 生ごみ処理機やコンポストの普及 ⇒「新たなライフスタイル」として具体的な選択肢を提示

傾向

若者や単身者世帯へは大学や企業などコミュニティ単位での働きかけが有効。

「手間」への心理的ハードルがある一方、習慣化することで取り組みが継続できるとの考え方も持っている。

行動変容には、金銭的インセンティブやゲーム性、SNS を活用した楽しく視覚的な情報発信が有効であり、また、環境改善の成果を「見える化」することで納得感を高めることができる。

さらには「分別」だけでなく、「ごみを出さない」という視点での意見も出ていた。

テーマ③：やってみたい環境活動は？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A 参加・主催したいイベントや体験活動	① ごみ処理施設見学 ② ごみ拾いウォークラリー ③ 公園等での植樹体験イベント ④ 手軽な服の交換会 ⑤ 区内美化運動への参加 ⑥ 環境問題の現場視察、生活排水の浄化実験など学びのツアーや発信 ⑦ CO ₂ を浄化するために必要な木や土の量を体験できるイベント	① ごみ処理施設見学や環境問題現場の視察、生活排水の浄化実験など、体験型学習ツアーや VR 動画の提供 ② 環境イベント等体験の場の創造 ⇒「見る」「知る」ことで、関心度を高める
B 日常生活で意識していること・したいこと	① 家庭で楽しめるごみバスケや家庭菜園 ② 廃食油の回収 ③ 生ごみ処理機やコンポスト	① 「おうちでエコ」アイデアの紹介 ⇒区民が日常で気軽に取り組めるよう奨励
C 区に期待すること	① 廃食油回収へのポイント付与など、継続的に参加できる仕組み ② 住民が気軽にごみ拾いをして集積できる「ごみ回収スポット」の常設設置	① インセンティブ制度の導入検討 ② 利便性の高いごみ回収インフラの整備 ⇒継続的な取り組みの動機付けとなる仕組みを構築する。

傾向

環境問題を見学や動画により「見る」「知る」、参加し「体験」することで意識を高まると考えている。

ゴミ拾いや清掃にゲーム性を加えることで参加意欲が高まる。

誰でも「手軽に」関われる仕組み（例：服の交換会や回収スポット）を整えることが重視されている。

また、情報発信のあり方では、行政による一方的な伝達ではなく、若者自身が情報発信者として関与する発信方法についても提案された。

環境問題をポジティブに捉え、楽しみながら参加できるような効果的な制度設計の必要性を求めている。

全体から見える傾向

若年層の環境意識は高いものの、行動に移すには「手間」や「情報不足」などの障壁が存在しており、取り組みに対しインセンティブや楽しさを求めている。

また、SNS や動画を活用した短く印象に残る発信が効果的であることや、「成果の見える化」、「体験」、「見学」により理解が深まることで、行動変容につながりやすくなると考えている。

大学・企業・地域などの若者が在籍するコミュニティを巻き込んだアプローチも有効と考えられる。

「分別」だけでなく、ごみを出さないライフスタイルへの転換、環境への取り組みをポジティブで自分ごととして捉えられる情報や啓発の仕組みづくりが求められている。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 身近な問題、「自分ごと」として感じてもらうことで積極的に取り組むことができる。② <u>みんなで取り組む</u>、<u>参加型</u>の活動とする工夫が必要。③ <u>楽しみながら</u>できる活動とすることで若者を巻き込むことができる。④ <u>日常生活の中でルール化</u>する（例：学校のルールで分別していれば家でも自然に取り組むことができる）。 |
|---|

きかせて！みんなのいけん（アンケート）」結果概要

【アンケート実施期間】 令和 7 年 5 月 8 日～6 月 22 日

【回答者数】

こども（小・中学生）	未就学児の保護者	高校生・若者
126 人	24 人	25 人

1 こども（小・中学生）からの回答

（1）学年別回答者数

学年	回答者数	構成比	学年	回答者数	構成比
小学 1 年生	0 人	0%	小学 6 年生	40 人	32%
小学 2 年生	26 人	21%	中学 1 年生	14 人	11%
小学 3 年生	2 人	2%	中学 2 年生	3 人	2%
小学 4 年生	6 人	5%	中学 3 年生	3 人	2%
小学 5 年生	28 人	22%	合計	126 人	100%

小学 2 年生、5 年生、6 年生からの回答が多くありました。小学 1 年生からの回答が無かったのは、学校配布のタブレットの使用がまだ定着していなかったためと考えられます。

（2）環境を守ることへの意識について

ア 地球の環境を守るとは大切だと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とても大切だと思う	108 人	86%
大切だと思う	17 人	13%
あまり大切だと思わない	1 人	1%

イ 地球の環境を守るために、自分にできることをしたいと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とてもしたいと思う	68 人	54%
簡単にできることならしたいと思う	56 人	44%
あまりしたくないと思う	2 人	2%
少しもしたくないと思う	0 人	0%

「あまりしたくない」と思う理由（複数選択可）

- ・面倒くさいから
- ・自分だけがやっても意味がないと思うから
- ・何をすればいいか分からないから

(3) 地球の環境について、どんなときに思い出したり考えたりしますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
学校の授業で環境のことを学んだ時	81 人	64%
環境の問題を紹介したテレビ番組を観たとき	61 人	48%
大雨や台風などニュースを観たり聞いたりしたとき	52 人	41%
夏にとっても暑い日が続いたとき	48 人	38%
環境を学ぶイベントに参加したとき	41 人	33%
そのほか	14 人	11%
特に考えたことは無い	9 人	7%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・紙製品を使ったり、木の製品を使うとき
- ・任天堂スイッチの YouTube で宇宙とか地球のことを話しているひとの動画を見たとき
- ・歩道や車道などにゴミが落ちていたとき
- ・自然公園や森、山や海などに自然観察をしたとき
- ・ママにお水を大事にしないとなくなっちゃうよとか言われた時
- ・海岸のゴミ拾いボランティアに参加したとき

(4) 地球の環境に問題があるといわれたとき、まず思い浮かべるのはどんなことですか。

(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
地球の気温が上がっていること	91 人	72%
海ごみやマイクロプラスチックのこと	68 人	54%
生き物が減ったり絶滅したりすること	66 人	52%
ごみを減らさないといけないこと	57 人	45%
食べ物がたくさん無駄になっていること	50 人	40%
とくに思い浮かばない	5 人	4%
そのほか	4 人	3%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・森林破壊
- ・未来の暮らしなど、何年後かのこと
- ・異常気象、酸性雨、土地の砂漠化

(5) 家族や友達と、地球の環境について話したことがありますか。

項目	回答者数	構成比
よく話をする	26 人	21%
たまに話をする	42 人	33%
話をしたことはある	36 人	29%
話をしたことがない	22 人	17%

(6) あなたが考える「環境にいいこと」は、どんなことをすることだと思いますか。

(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
電気やガス、水を大切に使う	107 人	85%
ごみを減らす	86 人	68%
生き物を大事にする	76 人	60%
食べ物を無駄にしない	75 人	60%
川や海をきれいにする（掃除する）	71 人	56%
まちの中に木や花をたくさん植える	55 人	44%
そのほか	6 人	5%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・火力発電をやめて、再生可能エネルギー等々を使って発電するなど。（太陽光・風力・地熱・水力）など。
- ・街のゴミを積極的に拾う活動も足立区などが開催してほしい。
- ・家に太陽光パネルをつける。

(7) 地球温暖化について

ア いま地球の気温が高くなってきていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	110 人	87%	58 人	97%
聞いたことはある	11 人	9%	2 人	3%
知らない	5 人	4%	0 人	0%

イ 地球が熱くなっているのは、空気中の二酸化炭素が増えているからといわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	90 人	71%	56 人	93%
聞いたことはある	19 人	15%	4 人	7%
知らない	17 人	14%	0 人	0%

(8) あなたが、普段していることや、したことがあることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
ごみを分けて捨てる	92 人	73%
テレビやゲーム、パソコンは使っていない時は消す	92 人	73%
使っていない部屋の電気は消す	89 人	71%
マイボトル（水筒）を持ち歩く	89 人	71%
買い物に行くときにエコバッグを持って行く	87 人	69%
お風呂に入るときや歯を磨くときに水を出しっぱなしにしない	87 人	69%
使わなくなった服やおもちゃを必要な人にあげる	71 人	56%
部屋を暖め過ぎたり冷やしすぎたりしないで、着る服を変える	58 人	46%
外に落ちているごみを拾ったことがある	49 人	39%
そのほか	3 人	2%
特になし	3 人	2%

(9) どんなことがあれば、地球の環境を守るために、できることをしたいと思いますか。
(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
友達や家族と一緒に楽しくやってみることができる	89 人	71%
ポイントが付いてプレゼントと交換できる	68 人	54%
自然の中でたくさん遊べるようになる	66 人	52%
いろんな生き物のことを知ることができる	59 人	47%
頑張ったことを発表したり表彰してもらえる	44 人	35%
新しい友達が増える	37 人	29%
そのほか	5 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・プレゼントの具体的内容（賞金・グッズなど）
- ・色々なイベントに安くまたは無料で参加できる
- ・環境を知れるところのスタンプラリー

(10) あなたが大人になったときに、しようと思うことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
電気を大切に使う	105 人	83%
水を大切に使う	94 人	75%
ごみをポイ捨てしない	92 人	73%
ごみを分けて捨てる	90 人	71%
エコバッグ、マイボトル（水筒）を使う	88 人	70%
食べ物は食べきれ的分だけ買う	87 人	69%
使い捨てを減らす	67 人	53%
エコマークのついた商品を買ったり使ったりする	59 人	47%
植物をそだてて緑を増やす	58 人	46%
車を使わず、電車やバスを使う	44 人	35%
まちのごみ拾いに参加する	42 人	33%
そのほか	6 人	5%
特になし	2 人	2%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・子どもたちが楽しめる環境に関するイベントを開いてみたい
- ・環境大臣になって、まずは日本の環境についての法律を変えたい。
- ・石油文明のあとに「もったいない文明」を創造する

(11) あなたが、地球環境を守るためにみんなにして欲しいことがあれば教えてください。

（自由記述）

寄せられた意見を、テーマごとに分類してまとめました。

ア まちなかのごみやポイ捨てについて
公園や街中でのポイ捨て、地面のガムなど、日常的に目にするごみ問題への不満や改善を求める声が特に多く挙がりました。
・ゴミはポイ捨てをしないで、分けてゴミ箱に捨てる（同一意見多数） ・捨てるのがめんどくさいからといって適当に投げてそのままにしないでほしい ・毎日ゴミ拾いをしてほしい ・街にゴミが落ちていたら、見て見ぬふりをしないで自分から拾ってほしい ・学校の授業でゴミ拾いの活動をする ・ゴミ箱をもっと作って下さい

イ	まちの緑化や自然環境の保護について
	まちのなかの緑化を推進して欲しいという意見が多く挙がりました。 ・道路の横に木を植えてほしい ・自然豊かな大きな公園を作って欲しい ・自然を大切にしたいので、木を切りすぎないでほしい ・植物を増やす取り組み ・学校で植物を増やす授業をする ・苗木の値段を安くしたり、複数買うとお得になるようなシステムがあるとみんなやると思う ・生きものをもっとふやしてほしい ・どうぶつをまもること ・木の家を積極的に作って欲しい
ウ	食品ロスについて
	食べ物を粗末にしないという意見も多数ありました。 ・食べ残しがないようにしてほしい（同一意見あり） ・食べきれ的分だけ買ったり、食べたりする ・食べ物を作るのは、いろいろな人が関わっていて沢山の命が奪われて作られているから、その事を忘れないで食べ物を粗末にしないでほしい
エ	エコライフの実践と普及
	具体的に取り組んで欲しい行動が多く挙げられました。 ・エコバッグで買い物をするやマイボトル（水筒）を持ち歩くは簡単にできるからみんなにしてほしい（同一意見あり） ・電気、水、ガス、を大切に使う（同一意見あり） ・ソーラーパネルをいっぱい作ってください ・二酸化炭素を多く出す車を使用するのはなるべく、避けて電車やバスを利用してほしい ・長く使えるものを買う、使う
オ	意識啓発と教育の重要性
	「地球の環境問題を知ったり、関心を持ったりしてほしい」という声が多くありました。 ・関心を持つための動画、授業をしてほしい ・もっとテレビやネットで、環境問題を取り上げて、身近な生活の一部が環境に優しくなるように活用できるようにして欲しい ・環境についてほんとに正しいのかを学校で講演会を開くなどして教えてほしい （例：紙ストローは本当に環境のためになっているのか、地球温暖化は二酸化炭素がすべて原因なのか） ・子どもから高齢者までが楽しめるイベントを作って沢山の人が参加してほしい ・学校の年間行事として地域清掃を取り入れたり木を植える場所を作って木を植えるようなプロジェクトを始めるのもいいと思う

カ 社会全体での取り組みの必要性

多くの主体が行動をすることを求める意見が挙げられました。

- ・「何人か」が環境を守るために何かをするのではなくて「みんな」が環境を守るために、節電や節水、食べ物の無駄遣いをしないようになってほしい
- ・ポイ捨てや、地球に悪いことは絶対にやらないでほしい。地球を大切にしてほしい（同一意見あり）
- ・Sdgs を守る
- ・みんなと仲良くしたり、みんなで助け合ったりしてほしい

2 未就学児の保護者からの回答

(1) 年代別回答者数

年代	回答者数	構成比	年代	回答者数	構成比
10代	0人	0%	50代	0人	0%
20代	2人	8%	60代以上	0人	0%
30代	16人	67%	無回答	0人	0%
40代	6人	25%	合計	24人	100%

保護者からは24名の回答がありました。半数以上が30代で16名でした。

(2) お子さんと地球の環境について話をすることはありますか。

項目	回答者数	構成比
よく話をする	1人	4%
たまに話をする	6人	25%
一度でも話をしたことはある	7人	29%
話をしたことはない	8人	33%
覚えていない	2人	8%

(3) お子さんには、地球にやさしい行動をとって欲しいと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とてもそう思う	13人	54%
そう思う	6人	25%
少しそう思う	5人	21%
あまりそう思わない	0人	0%
全くそう思わない	0人	0%

(4) 地球の環境について意識するのはどんなときですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
猛暑日などが続いたとき	17人	71%
環境にまつわるテレビ番組等をみたとき	16人	67%
気象災害のニュースに触れたとき	15人	63%
環境にまつわるイベント等に参加したとき	6人	25%
そのほか	2人	8%
意識したことがない	1人	4%

別冊資料 3-③

(5) 環境問題と言われたとき、思い浮かべるのはどんなことですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
地球温暖化	19 人	79%
ごみのポイ捨てや増加について	17 人	71%
海ごみやマイクロプラスチックについて	16 人	67%
食品ロス	12 人	50%
生物多様性（種の減少や絶滅）について	12 人	50%
とくに思い浮かばない	0 人	0%
そのほか	0 人	0%

(6) 環境にやさしい行動をするため、少し不便になったりお金がかかったりする場合、あなたの考えに近いのはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
やりたい気持ちはあるが、お金がかかることはできないと思う	14 人	58%
やりたい気持ちはあるが、不便なことは続けられないと思う	11 人	46%
少しの不便やお金がかかっても環境を守るためにやと思う	7 人	29%
不便になったりお金がかかったりすることは、やりたくないと思う	1 人	4%
そのほか	0 人	0%

(7) 区が実施する環境に関するイベントに参加されたことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
参加したことはない	18 人	75%
A-Festa 等の区のイベントで、環境に関する出展ブースに立ち寄ったことがある	4 人	17%
地域学習センター等で実施する、環境に関する講座やワークショップに参加したことがある	2 人	8%
屋外で実施する環境イベント（環境学習ツアー、自然体験デーなど）に参加したことがある	1 人	4%

(8) 区が発信する環境に関する情報やイベントの情報で、見たことがあるものを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
あだち広報	17 人	71%
足立区公式 X (旧 Twitter)	13 人	54%
公共施設等での掲示物（チラシやポスター）	10 人	42%
足立区公式 LINE	8 人	33%
足立区公式 Facebook	4 人	17%
地域の掲示板・回覧板	3 人	13%
足立区公式 Instagram ※令和 7 年 4 月 23 日から運用開始	0 人	0%
見たことがない	2 人	8%

(9) 地球温暖化と CO₂排出削減の考え方

ア 地球温暖化の原因が、大気中の二酸化炭素の増加といわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比
知っている	22 人	92%
聞いたことはある	2 人	8%
知らない	0 人	0%

イ 二酸化炭素の排出削減について、あなたの考えに近いものはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
国や自治体が排出削減に取り組むべきである	14 人	58%
個人でも排出削減に取り組むべきである	13 人	54%
排出量の多少に係わらず、企業等は排出削減に取り組むべきである	12 人	50%
特に排出量の多い企業等が排出削減に取り組むべきである	10 人	42%
そもそも排出削減に取り組む必要性を感じない	3 人	13%
そのほか	1 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・火山活動などによる温暖化ガス排出が占める割合も多く、人為的に排出削減がコントロールできるのかよくわからない

(10) あなたが考える「環境に良い行動」はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
食品ロスの削減に努めること	20 人	83%
ごみの削減に努めること	18 人	75%
省エネを心がけること	15 人	63%
再生可能エネルギー（太陽光発電など）を利用すること	14 人	58%
使い捨てプラスチック使用を控えること	9 人	38%
自家用車の使用を減らし公共交通機関を利用すること	8 人	33%
そのほか	2 人	8%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・資源のとりすぎなど現代の暮らしのあり方に関して鵜呑みにせず、在り方そのものを問い直すこと
- ・自然環境に対する好奇心や愛着のような感情を醸成すること

(11) あなたが実際に取り組んでいることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
エコバッグやマイボトルを使う	20 人	83%
食品を無駄にしないよう心がける	18 人	75%
ごみを分別して捨てる	16 人	67%
節電に取り組む	14 人	58%
水を大切に使う	12 人	50%
使わなくなったものをリサイクルに出す	12 人	50%
ごみを減らすよう心がける	11 人	46%
自然の中で遊んだり、自然に係るイベント等に参加する	9 人	38%
自家用車の利用を減らし、公共交通や自転車を利用する	4 人	17%
植物を育てて緑を増やす	4 人	17%
エコマークのついた商品など、環境に配慮した製品を使用する	3 人	13%
地域のごみ拾いに参加する	2 人	8%
そのほか	2 人	8%
特になし	0 人	0%
上記のなかで、子どもも一緒に取り組んだことがある	20 人	83%

(12) 環境を守るための取り組みをすることで、どんな利点が得られると思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
環境保全に寄与していると思えることで、自分自身の満足度が高まるという利点	12 人	50%
太陽光発電設備等の導入による電気代の削減などの、経済的な利点	12 人	50%
住宅の高断熱化などによるヒートショックの予防などの、健康面での利点	9 人	38%
地域の清掃活動などを行うことで同じ志の仲間ができたり、社会貢献ができる利点	3 人	13%
そのほか	3 人	13%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・ホモサピエンスの生存環境を維持していくことは、子孫のためになるし種の繁栄のために役立つ
- ・利点というより、人類が生存できる環境を維持していくためにはせざるを得ないことだと思う。資産の生存環境を守るため、というべきか

- (13) 地球の環境を守るために、地域や区全域で取り組むべきと思うことがあれば教えてください。(自由記述)

ア 廃棄物について
・ごみの分別 ・ゴミの分別をもっと項目数を増やしてほしい。調べても載っていないゴミの種類がある ・不法投棄の厳罰化
イ 意識啓発や行動変容について
・ゴミゼロの日、やCO2ゼロの日、などを作って、みんなで一斉にこの日だけはそのテーマに取り組んでみるとかしたらどうか。皆んなでやることで、交流も生まれるし環境の事をやるのが恥ずかしいことではないと思えるかなと思う。 ・省エネすると経済的にいいとか損得勘定だけでなく、種全体の生存環境を保全していくことの必要性をきちんと流布していくべきと思う。足立の環境問題への意識啓発はなんとなくレベルが一段低いと感じる。
ウ 区への要望
・バスの路線の再検討 ・区の広報誌、見る暇がないので見たことがないです。Twitterや公式LINE、Google検索等で必要な情報は目に入ります。そのままゴミ箱に捨てています。必要な人にだけ届くようにして、そこで削減された経費はエコ活動に回してもらえると大変ありがたいです。
エ その他
・区民は個人レベルで生活の負担にならない取り組みを行い、区長と国会議員は立法府に掛け合えばよい。 ・「足立区がこれだけ頑張ったから地球の環境がこう良くなった！」と検証できないのだから、区の財政を使ってやることではないと思う。

3 若者（高校生・社会人など）からの回答

(1) 職業別回答者数

年代	回答者数	構成比	年代	回答者数	構成比
高校生	17 人	68%	社会人	6 人	24%
大学生等	1 人	4%	その他	1 人	4%
			合計	25 人	100%

(2) 地球の環境について意識するのはどんなときですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
気象災害のニュースに触れたとき	17 人	68%
猛暑日などが続いたとき	16 人	64%
環境にまつわるテレビ番組等をみたとき	10 人	40%
環境にまつわるイベント等に参加したとき	4 人	16%
そのほか	2 人	8%
意識したことがない	0 人	0%

(3) 環境問題と言われたとき、思い浮かべるのはどんなことですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
地球温暖化	21 人	84%
海ごみやマイクロプラスチックについて	15 人	60%
ごみのポイ捨てや増加について	11 人	44%
食品ロス	10 人	40%
生物多様性（種の減少や絶滅）について	8 人	32%
とくに思い浮かばない	0 人	0%
そのほか	2 人	8%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・自然災害
- ・発展途上国の医療環境

(4) 環境にやさしい行動をするため、少し不便になったりお金がかかったりする場合、あなたの考えに近いのはどれですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
やりたい気持ちはあるが、お金がかかることはできないと思う	13 人	52%
少しの不便やお金がかかっても環境を守るためにやと思う	7 人	28%
やりたい気持ちはあるが、不便なことは続けられないと思う	7 人	28%
不便になったりお金がかかったりすることは、やりたくないと思う	4 人	16%
そのほか	1 人	4%

別冊資料 3-③

(5) 区が実施する環境に関するイベントに参加されたことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
参加したことはない	20 人	80%
A-Festa 等の区のイベントで、環境に関する出展ブースに立ち寄ったことがある	2 人	8%
地域学習センター等で実施する、環境に関する講座やワークショップに参加したことがある	2 人	8%
屋外で実施する環境イベント(環境学習ツアー、自然体験デーなど)に参加したことがある	2 人	8%

(6) 区が発信する環境に関する情報やイベントの情報で、見たことがあるものを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
公共施設等での掲示物(チラシやポスター)	10 人	40%
見たことがない	9 人	36%
あだち広報	9 人	36%
足立区公式 X (旧 Twitter)	8 人	32%
地域の掲示板・回覧板	4 人	16%
足立区公式 Instagram ※令和 7 年 4 月 23 日から運用開始	2 人	8%
足立区公式 LINE	1 人	4%
足立区公式 Facebook	1 人	4%

(7) 地球温暖化と CO₂排出削減の考え方

ア 地球温暖化の原因が、大気中の二酸化炭素の増加といわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比
知っている	23 人	92%
聞いたことはある	0 人	0%
知らない	2 人	8%

イ 二酸化炭素の排出削減について、あなたの考えに近いものはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
個人でも排出削減に取り組むべきである	19 人	76%
国や自治体が排出削減に取り組むべきである	11 人	44%
特に排出量の多い企業等が排出削減に取り組むべきである	10 人	40%
排出量の多少に係わらず、企業等は排出削減に取り組むべきである	7 人	28%
そもそも排出削減に取り組む必要性を感じない	2 人	8%
そのほか	1 人	4%

- (8) 若い世代に環境に関する情報を伝えたり、実際に行動をしてもらいたい場合、どのような周知の方法や支援が効果的だと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
家計の節約になるなど、経済的な利点に着目して発信する	16 人	64%
インフルエンサーが SNS で発信する	15 人	60%
具体的な取り組み方法を発信する	11 人	44%
取り組みに応じてポイントが貯まり、商品に交換できる	10 人	40%
取り組みに対して補助金を受けられる	8 人	32%
芸能人がテレビなどで発信する	5 人	20%
取り組んだことを区が広く紹介するなど、情報発信のサポートを受けられる	4 人	16%
そのほか	1 人	4%

- (9) あなたが考える「環境に良い行動」はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
食品ロスの削減に努めること	18 人	72%
省エネを心がけること	15 人	60%
ごみの削減に努めること	14 人	56%
使い捨てプラスチック使用を控えること	13 人	52%
再生可能エネルギー（太陽光発電など）を利用すること	8 人	32%
自家用車の使用を減らし公共交通機関を利用すること	4 人	16%
そのほか	1 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・具体的な行動については思いつかないが、長期的に見た時にその行動が環境にいいかどうかを考えて行動に移す必要性を感じる。

(10) あなたが実際に取り組んでいることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
ごみを分別して捨てる	17 人	68%
節電に取り組む	15 人	60%
エコバッグやマイボトルを使う	14 人	56%
食品を無駄にしないよう心がける	14 人	56%
水を大切に使う	11 人	44%
使わなくなったものをリサイクルに出す	3 人	12%
植物を育てて緑を増やす	3 人	12%
エコマークのついた商品など、環境に配慮した製品を使用する	3 人	12%
特になし	3 人	12%
地域のごみ拾いに参加する	2 人	8%
自然の中で遊んだり、自然に係るイベント等に参加する	2 人	8%
自家用車の利用を減らし、公共交通や自転車を利用する	1 人	4%
ごみを減らすよう心がける	0 人	0%
そのほか	0 人	0%

(11) 環境を守るための取り組みをすることで、どんな利点が得られると思いますか。(複数回答可)

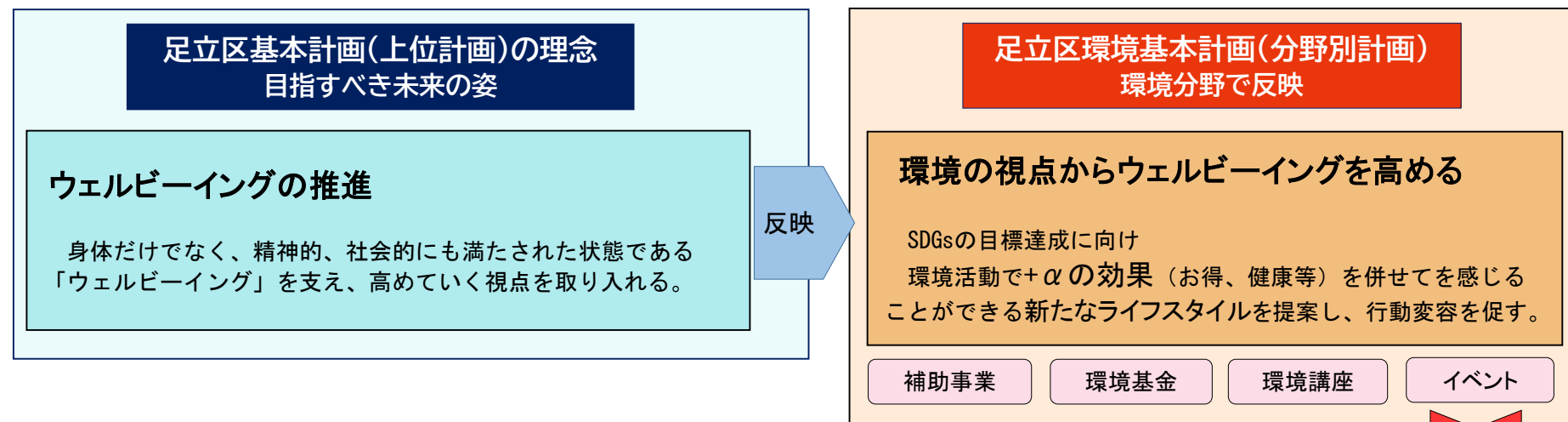
項目	回答者数	構成比
環境保全に寄与していると思えることで、自分自身の満足度が高まるという利点	16 人	64%
太陽光発電設備等の導入による電気代の削減などの、経済的な利点	11 人	44%
地域の清掃活動などを行うことで同じ志の仲間ができたり、社会貢献ができる利点	8 人	32%
住宅の高断熱化などによるヒートショックの予防などの、健康面での利点	6 人	24%
そのほか	2 人	8%

(13) 地球の環境を守るために、地域や区全域で取り組むべきと思うことがあれば教えてください。(自由記述)

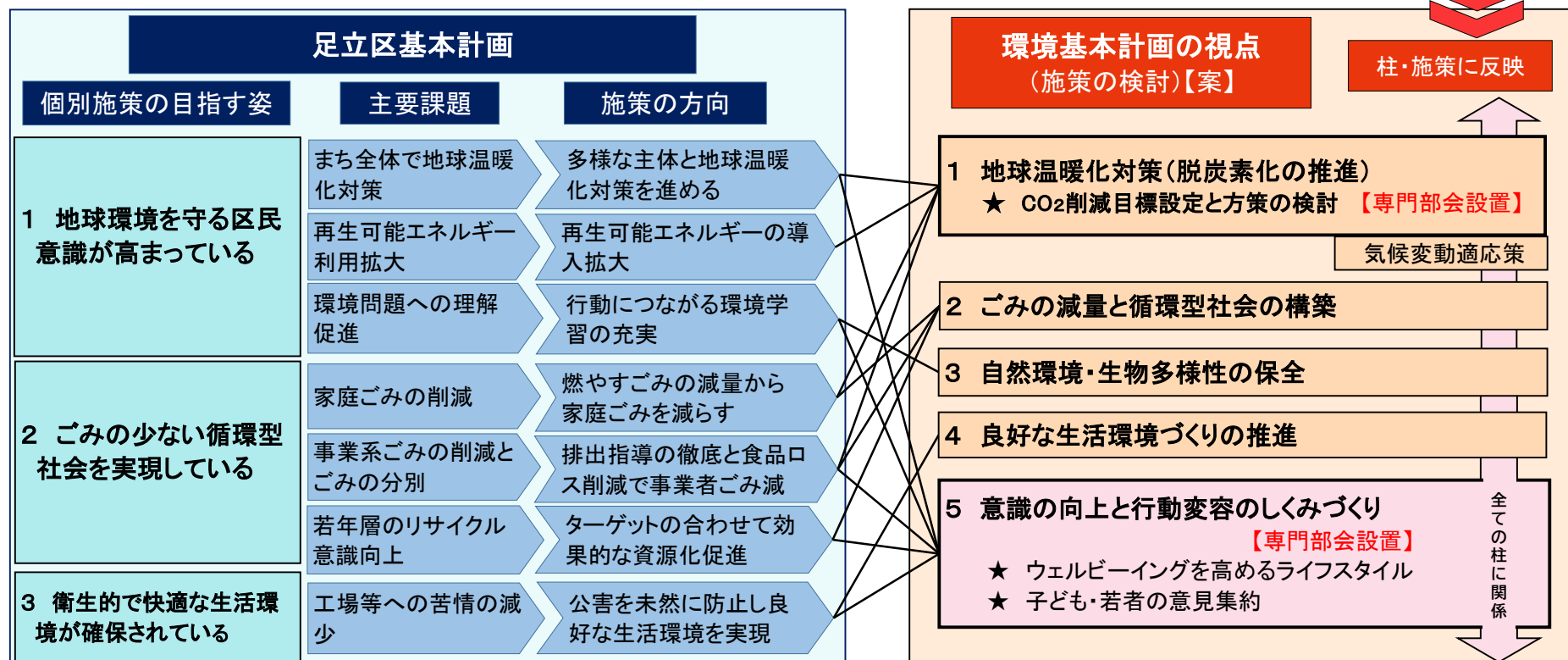
- ・ポイ捨てをお構いなしに行う外国人の取り締まり
- ・舎人公園周辺に住んでいますが、公園の周りの道路に停まっているトラックのポイ捨てや立ちションが酷すぎます。どんなにクリーンアップイベントや環境配慮を訴えても他の区から来る人が汚したりポイ捨てをしていたら意味がない気がします。
- ・緑化
- ・個人個人が環境問題を意識することによって経済的なメリットがあつたり地球温暖化によって生じるデメリットをもっと周知させて、他人事ではないということを伝えることが大切だと思った。
- ・まずはたくさんの人に環境についての考えを広めることやそこから詳しくどのようなことをすれば良いかどのような利点があるかを伝えることが大事だと思います。
- ・ゴミ箱を設置する

上位計画の理念を反映させた環境基本計画の策定

1 計画の理念を環境の視点で反映



2 目指す姿の実現に向けた環境基本計画の具体的な施策検討



環境基本計画策定スケジュール

